

戦略的創造研究推進事業
(社会技術研究開発)
平成26年度研究開発実施報告書

研究開発プログラム
「コミュニティで創る新しい高齢社会のデザイン」

研究開発プロジェクト
「健康長寿を実現する住まいとコミュニティの創造」

研究代表者：伊香賀 俊治
(慶應義塾大学 理工学部 教授)

1. 研究開発プロジェクト名

健康長寿を実現する住まいとコミュニティの創造

2. 研究開発実施の要約

(1) 研究開発目標

■ 一次予防の拡充とゼロ次予防の構築

本事業では、高齢化率が我が国全体の40年後（2050年）の未来の姿となっている中山間地域のモデルとして、個人レベルでの“一次予防”に加え、住まいとコミュニティの改善による“ゼロ次予防”の構築を目指し、高知県梶原町をフィールドとした実証を行う。住民（住民組織）と協働したフィールド調査や生涯学習、見守り活動の推進によって、下記を達成することを目標とする。

I. 実態調査に基づく健康長寿に資する住環境の論拠獲得

II. 論拠獲得に併せた持続可能な生涯学習の場の確立

III. ICTの活用による負担の少ない健康長寿支援システムの構築

3ヵ年の事業の推進によって上記を達成し、生活習慣病や、住宅内外における健康被害、住民組織・自治体の疲弊の予防など、一次予防の拡充とゼロ次予防を果たす、持続可能な健康長寿支援システムを構築する。

■ 成果の普及と実装可能性に関する探求

当研究開発で得られた成果については他のコミュニティにも展開し、実装を図っていく必要がある。そこで本事業においては、同様に山間地域が多く存在し、同様の課題を抱える高知県内の市区町村や、都心部で高齢化が進みつつある東京都多摩市などにおいて同様の調査を展開していく。これによって日本全国での適応について検討する他、ワークショップやシンポジウム等を通して自治体間や住民間で情報を共有していくことで、成果の普及と実装可能性について探る。

(2) 実施項目・内容

- 1) 「ゆすはら健康長寿の里づくりプロジェクト」推進員の8期生の引き継ぎ
- 2) 高齢者政策の地域経済活性効果検証のための家計調査の実施
- 3) 高齢者見守りシステム 岩手・宮城視察
- 4) 「おげんき発信」試験導入の開始
- 5) 多摩ニュータウン「介護予防講座」の地区別実施
- 6) 事業成果報告・普及活動

(3) 主な成果（要旨）

平成26年度においては主に下記の成果を得た。

■ 「梶原町健康文化の里づくり推進員」の橋渡し

研修会への参加、地域の人々への健康意識づくり、総合健診への受診の呼びかけ等を行い、地域コミュニティの核となっている「梶原町健康文化の里づくり推進員」の8期生、75名が2014年3月に卒業し、4月から新たに9期生、74名が就任した。2014年3月に行った8期生を対象とした最後の研修会では、プロジェクトの進捗報告を行った他、夏の地区別勉強会で、8期生と9期生の交流を進めた。

■ 高齢者政策の地域経済活性化効果検証のための家計調査の実施

梶原町の産業連関分析を行なうことで、高齢者政策の地域経済活性化効果検証ができること期待される。そこで、梶原町の住民の消費行動を把握することを目的として、2014年8月の「梶原町生計費調査第1回（夏調査）」を皮切りに3回の調査を実施した。梶原町役場の協力のもと、町内6地区の集会所や個別世帯にて説明会を行い、梶原町全体の職業や年齢層のバランスを反映させた、約100世帯を対象に調査を行った。各世帯の構成や、1週間に購入した品目や値段等の用紙への記入を依頼し、家賃や電気料金等の支出の大きい項目についても把握した。実施済みの夏調査、秋調査、冬調査に加え、今後は春調査を行い、住民の年間の消費行動を把握することにより、梶原町で生活するために必要な物、費用を明らかにし、梶原町の「住みやすさ」に検証する。

■ 高齢者見守りシステム 岩手・宮城視察

岩手県や宮城県で導入されている見守りシステムの視察や利用者との交流を通して、先進的な取り組みを学ぶと共に梶原町での取り組みの意義について、研究実施者、梶原町職員らで学習・共有を果たした。

■ 梶原版「おげんき発信」試験導入の開始

2014年12月に小川PJの取り組みである「おげんき発信」の梶原町における試験導入を開始した。梶原では独自の取り組みとして対象者に「おげんき発信」と併せて室内の温度や血圧についても記録を依頼した。記録作業を通じて日々の室温や自分自身の健康状態などを自覚的に気付くきっかけとなることが期待される。試験導入の期間は2015年9月までを予定しており、その後本格導入に向けて検討を進める。

■ 多摩ニュータウン「介護予防講座」の地区別実施

2014年9月に多摩ニュータウンに所在する介護予防施設にて介護予防講座を実施した。同講座を通じて地域在住の高齢者に対して住まい・コミュニティでの健康長寿について普及啓発を行った。

■ 事業成果報告・普及活動

「みんなで未来につなぐ 福祉のまちづくり大会」や「健康推進委員合同研修会」において、梶原町住民に対して、住まい・コミュニティでの健康長寿について普及啓発および当事業で得た成果と既往の知見を報告した。

3. 研究開発実施の具体的内容

(1) 研究開発目標

●背景：高齢化による医療財政の逼迫

我が国は、少子高齢化、人口減少といった課題に世界に先駆けて直面し、医療財政が逼迫している。2010年の医療費、介護費の年間総額はそれぞれ37兆円、8兆円に及んでおり、2025年には、医療費は約2倍（68兆円）、介護費は約3倍（24兆円）に達すると予測されており、この対策が急務である。

●論点：疾病の未然予防の必要性

超高齢化社会に向けて、“疾病予防・健康維持増進”を重視する保健医療体系への転換が求められているが、住民の意識変革と行動変容による健康づくり（一次予防）のみでの対策には限界が指摘されている。ここで、社会レベルでの疾病予防（ゼロ次予防）の対象域として、住民の生活基盤である“屋内外住環境”の重要性が再認識されている（図1）。屋内外での転倒事故や溺水の増加や、劣悪な温熱環境を起因とする健康被害を考慮すると、住環境における潜在的な健康影響は少なくないと予測され、これらのリスクを最も被りやすくなるのは高齢者であることから、高齢化対策に向けて屋内外住環境の改善を伴うゼロ次予防の推進は必須といえる。

また、高齢単身世帯の急増に伴い、孤独死のリスクと医療福祉サービスの需要は年々増加している。需要の急速な増大はサービス供給不足に陥り、結果的にサービスの質低下に加担している。救急医療の場においても同様の現象が生じており、患者の急増によって不安定な救急体制が続いている。梶原町でも例外ではなく、特に、医療福祉従事者らの訪問・送迎サービスにかかる労働負担が年々顕在化してきている。この深刻化によっては、高齢者が高齢者を守ることを強いられる「老老看護型社会」となりかねないことから、ゼロ次予防システムの構築と、更なる一次予防の推進が急務である。



星旦二：ゼロ次予防に関する試論，地域保健，vol.20-6,1989

図1 更なる一次予防の推進と住環境改善によるゼロ次予防の重要性

●目標：一次予防の拡充とゼロ次予防の構築

本事業では、健康長寿を実現する住まいとコミュニティの創造に向けて、高齢化率が日本国全体の40年後(2050年)の姿となっている高知県梶原町をフィールドとして、実証プログラムを推進する。個人レベルでの“一次予防”に加え、住まいとコミュニティの改善による“ゼロ次予防”の構築を目指す。住民と協働したフィールド調査や生涯学習、見守り活動等の事業推進によって、下記を達成する。

- I. 実態調査に基づく健康長寿に資する住環境の論拠獲得
II. 論拠獲得に併せた持続可能な生涯学習の場の確立
III. ICTの活用による負担の少ない健康長寿支援システムの構築

生活習慣病や、住宅内外における健康被害、住民組織・自治体の疲弊の予防等、一次予防とゼロ次予防を果たす、持続可能な健康長寿支援システムの構築する（図2）。

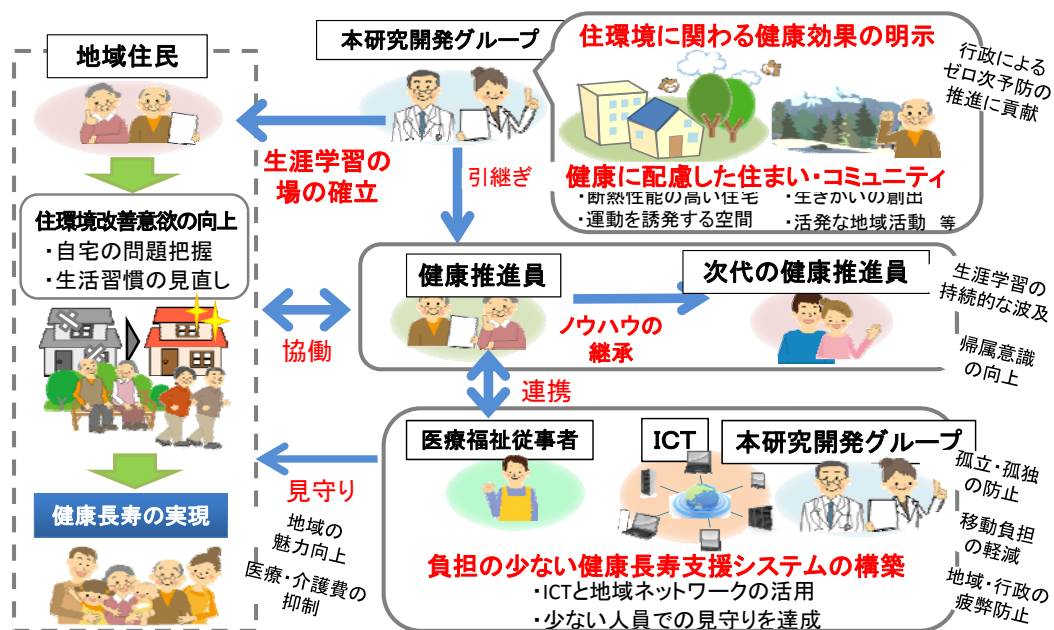


図2 健康長寿を実現する住まいとコミュニティのイメージ

(2) 実施方法・実施内容

本事業では、前述の目標達成に向けて、下記に示す3つアクションの連動によって推進する。

- ・ Act.1 住環境に関する健康リスクの検証
- ・ Act.2 住環境を含む生涯学習の推進
- ・ Act.3 住環境の見守りシステムの実証

Act1.から3までのフローチャートを図3に示し、その詳細を続けて記す。

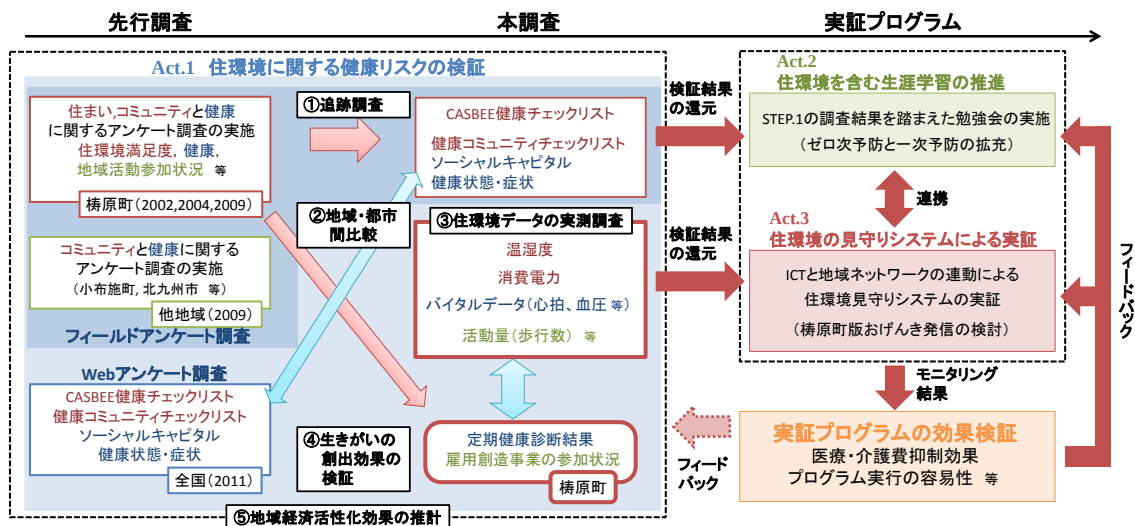


図3 研究開発におけるフローチャート

Act.1 住環境に関する健康リスクの検証

① 追跡調査

過去3度の調査で回答の得られた住民等（約1,000名）に対して、健康状態や住環境、生活習慣等のアンケート調査ならびに中心地区在住の住民（約400名）には室温調査を実施し、疫学的手法に基づいて住まいとコミュニティにおける健康決定要因に関する検討を行うことを計画している。ここでは、先行調査と同様に経年による健康状態の差異について検証を行う。これらによって、住環境や、生活習慣、生きがいの有無等の要素から健康影響要因について解明する。

② 地域・都市間比較

他地域で実施した先行調査（フィールド調査、WEB調査等）で得たデータを活用し、地域・都市間比較の実施を予定している。梼原町の住まいとコミュニティの位置づけと特性を明確化し、健康長寿に資する住環境の普及のための知見の獲得を目的とする。

③ 住環境データの実測調査

各世帯において、住宅内の暴露環境に関わる項目（温湿度等）や、生活習慣に関わる項目（活動量等）、健康状態に関わる項目（血圧、心拍数、体温、睡眠の質等）について測定し、梶原町民の住環境と生活習慣の実態を把握する。住環境に応じた生活習慣や、転倒・骨折のリスク、健康状態等の差異について検証し、どのような住まいとコミュニティが、睡眠効率の向上、運動や地域交流の促進に寄与するか等を探る。

④ 生きがいの創出効果の検証

過去の調査結果と本研究開発で実施する追跡調査結果に基づいて、梶原町が推進する雇用創造事業への参加状態や、地域活動の参加状況、仕事の有無等について検証し、生涯学習や生きがいの創出効果の検証を行う予定である。

⑤ 地域経済活性化効果の推計

①～④で得られた情報と家計調査を基に、高齢者の医療・福祉・住環境整備に係る施策による地域経済活性化の側面について、産業連関アプローチを中心に取り組む。

Act. 2 住環境を含む生涯学習の推進

既往研究とAct.1によって明らかとなった地域の現状と健康リスクに関して、地域住民と情報共有の場を設ける。これらによって、住環境の健康対策を含む生涯学習を推進し、地域におけるゼロ次予防と一次予防の拡充を図る。提供する情報及び教材については、研究者グループと地域住民の共同で検討し、住民の手による一次予防とゼロ次予防が、梶原町での生涯学習を通して持続的に取り組まれるような仕組みづくりを行う。例えば、高性能のモデル住宅滞在による「宿泊体験プログラム」や、小中学生とその保護者を対象とした「体力アッププログラム」等がそれに該当する。

また、近年では、高齢者本人の意志確認のない長期入院・入所などによる終末期医療でのコスト増大が問題視され、在宅終末期医療に関する要望が高まっていることから、最期を支える往診・外来の在り方や、生きがいをもって最期を迎えることのできる地域・コミュニティの在り方についても、住民や地域を支える医師と共に協議を行い、多摩市での展開を含めて他の都市やコミュニティへの展開についても検討する。

Act.3 住環境の見守りシステムの実証

ここでは、モニター家庭を募集し、梶原町が町内全戸に配備しているICTと地域ネットワークの連動による住環境の見守りシステムの実証を行う。このシステムは、小川PJで実施されている“おげんき発信”の梶原版について検討し、高齢者の効率的な見守りと住環境における健康リスクの事前周知・回避を同時に促進するものである。

高齢者と連動して、高齢者は温熱環境の変化に気づきにくいことから「室温が低くなり過ぎているモニターを感知し、住環境改善のアドバイスを行う」「問題があると見受けられる際には、担当の健康推進員を交えて、改善策や応急処置の実施検討」といった活用により、持続可能で効果効率の高い健康長寿支援システムの構築を目指す。

本年度の活動の位置づけ

平成26年次については、「健康長寿に資する住環境の論拠獲得」と「持続可能な生涯学習の場の確立」の達成に向けて下記の事業を推進した。

- 1) 「ゆすはら健康長寿の里づくりプロジェクト」推進員の交代
→ (Act.2に該当)
- 2) 高齢者政策の地域経済活性効果検証のための家計調査の実施
→ (Act.2に該当)
- 3) 高齢者見守りシステム 岩手・宮城視察
→ (Act.2に該当)
- 4) 梶原版「おげんき発信」試験導入の開始
→ (Act.2に該当)
- 5) 多摩ニュータウン「介護予防講座」の地区別実施
→ (Act.2に該当)
- 6) 事業成果報告・普及活動
→ (Act.2に該当)

(3) 研究開発結果・成果

前述の通り、平成26年次は主に6プログラムを推進した。本節においてはそれぞれの詳細について示す。

1) 「梶原町健康文化の里づくり推進員」の交代

1-1. 概要

研修会への参加、地域の人々への健康意識づくり、総合健診への受診の呼びかけ等を行い、地域コミュニティの核となっている「梶原町健康文化の里づくり推進員」の8期生、75名が3年間の任期満了につき2014年3月に卒業し、4月から新たに9期生、74名が就任した。2014年3月8日に行った8期生を対象とした最後の研修会では、これまでの活動に対する感想、9期生へのメッセージ等について情報を収集し、その後伊香賀研究室よりプロジェクトの進捗報告を行った。

8期生を対象として2013年冬季に実施した、梶原町が所有するモデル住宅への冬季模擬転居調査に関する結果を示した。断熱性能が高く室内温熱環境が良好なモデル住宅では、自宅と比較して起床時の血圧が6mmHg低下したこと、室温温度差が大きいほど活動量が減少したこと等を報告し、住環境と健康の関係について普及啓発を行った。

今後は推進員の9期生を中心として梶原町民に協力を依頼し、本プロジェクトを進めていく。

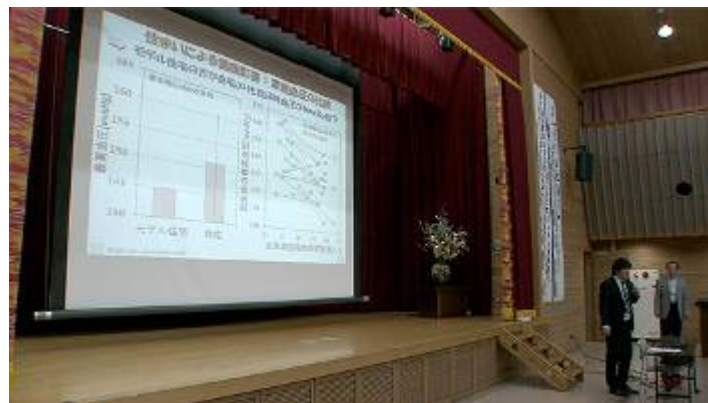


写真1-1 研修会でのプロジェクトの進捗報告の様子

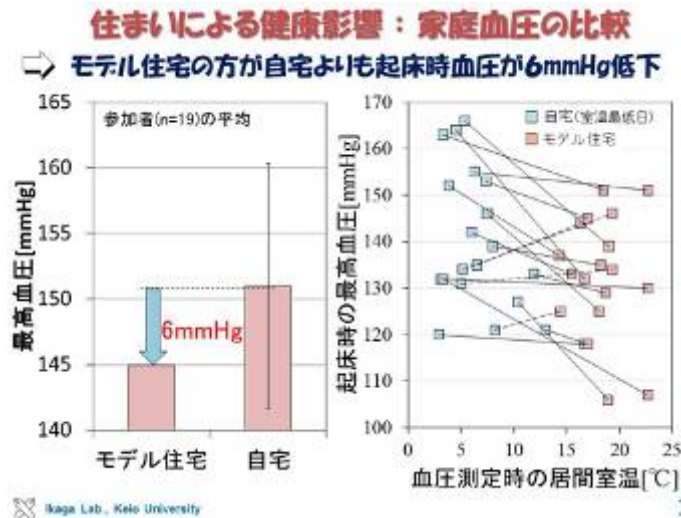


写真1-2 研修会でのプロジェクトの進捗報告内容（例）

2) 高齢者政策の地域経済活性効果検証のための家計調査の実施

2-1. 目的

目的① 現状の梶原町における産業構造と経済活動を把握する

梶原町においては、非常に手厚い医療福祉政策や農林業によるエネルギー開発など、高齢化社会に対応した持続可能な社会を実現するため既に様々な方策が実施されており、このため他の平均的な高知県や全国の農村部と比してかなり特異な産業構造と経済活動が展開されていると考えられる。農業・林業・医療・介護・新エネルギー等いくつかの特徴的な産業についてはヒアリングを行い、家計部門についてはサンプル家計を対象にした生計費調査を年4回行い、こうした経済活動の部分のできる限り詳細かつ正確に把握し、梶原町の産業連関表を作成することを目指す。

目的② 本プロジェクトでの様々な方策の経済効果を評価する

収集された経済活動状況に関するデータを産業連関表として整理することで、当該地域における全ての経済活動を定量的に把握できるようになると期待される。これを利用することで、本プロジェクトで検討される様々な方策について、町全体に普及した場合の経済効果を推計・評価することを目指す。

2-2. 調査方法

1. 産業部門へのヒアリング

・新エネルギー

風力発電、小規模水力、太陽電池については梶原町環境整備課に対して、木質ペレットについては梶原町森林組合へ運用状況をヒアリングした。

・農業

農家からの出荷状況と販売先、農家の購入品についてJA津野山へヒアリングを行った。

- ・ 林業

林産資源の出荷状況・販売先について梶原町森林組合へヒアリングした。

- ・ 医療・介護

国保梶原病院と社会福祉法人カルスト会へ利用状況・薬品等購入資材についてヒアリングを行った。

- ・ 土木・建設業

資材の購入先、仕事の請負先について町内の建設業者（ナカセキ、岩井建設、共同生コン、中山住宅設備、杉本建設、四万川総合建設）にヒアリングした。

- ・ その他製造業

製品内訳、資材購入内訳、購入先、製品出荷額、出荷先等について、町内の業者（東洋ステーム）へヒアリングを行った。さらに四国部品、ミロクへのヒアリングを予定している。

2. 家計部門の生計費調査

梶原町役場企画財政課にご協力いただきながら、町内で生計を営む110件ほどの家計を抽出し、夏（第1回、平成26年8月）、秋（第2回、10月）、冬（第3回、平成27年2月）の3シーズンに渡りサンプル調査を行った。それぞれ1週間ずつの期間に①購入或いは②頂いたもの、③その月の定期的な支出、④不定期で大きな支出、の4項目について家計簿に記録し、新保研究室へ送付していただいた。

調査スケジュール

- ・ 第1回生計費調査（夏調査）

期間：2014年8月16日～29日の期間内の1週間

8月16日～21日の間は各地区の集会場で説明会開催

8/16 越知面地域交流センター

8/17 松原ふれあいセンター

8/18 鷹取の家（初瀬区）、梶原町夢未来館（東区）

8/19 四万川交流センター、梶原町夢未来館（東区）

8/20 梶原町夢未来館（東区）

8/21 西区生涯学習館

協力世帯数：85件（115件中）

- ・ 第2回生計費調査（秋調査）

期間：2014年10月8日～15日の期間内の1週間

協力世帯数：67件（115件中）

- ・ 第3回生計費調査（冬調査）

期間：2015年2月10日～16日の期間内の1週間

協力世帯数：57件（115件中）

シート1 1週間で購入したもの

日付	品名	金額	日付	品名	金額
/		円	/		円
/		円	/		円
/		円	/		円
/		円	/		円
/		円	/		円
/		円	/		円
/		円	/		円
/		円	/		円
/		円	/		円
/		円	/		円
/		円	/		円
/		円	/		円
/		円	/		円
/		円	/		円
/		円	/		円

豊後大学 島田部 新保一博研究室

シート1(1週間で購入したもの)

月ごとの出費	金額	円
家賃(賃貸の場合)		円
ガス料金		円
水道料金		円
電気料金		円
固定電話		円
携帯電話		円
インターネット		円
新聞		円
NHK受信料		円
ケーブルテレビ		円
仕送り		円
月謝(部い事など)		円
お米代	kg	円
ガソリン代	L	円
軽油代	L	円
灯油代	L	円

シート3(月毎に定期的に支払う出費)

The image shows a 'Shiawase Kiji' (Happiness Kiwi) form, a popular self-reflection and peer evaluation tool in Japanese schools. The form is pink and white, with a kiwi bird illustration and a speech bubble. It is placed on a desk with other papers and a ruler visible in the background.

回収された調査票

12



写真1-4 各地区集会場での説明会の様子



写真1-5 個別訪問での説明の様子

また、消費財の価格を調査するため、町内のスーパー「まるみ」にご協力を頂いて野菜・肉等の価格調査を実施した。

夏調査では85件、秋調査では67件、冬調査では57件のサンプルを収集し、平成27年5月に実施予定の第4回春の調査で1年を通じた調査が完了する予定である。

[Webサイト]

慶應義塾大学 商学部・商学研究科 新保一成 研究室 Webサイト
ゆすはら健康長寿の里づくりプロジェクト「梶原生計費調査」ページ
<http://www.fbc.keio.ac.jp/~shimpo/yusuhara/>

3-1. 概要

3-2. 参加者

■高知県からの参加者

3-3. 日程

於 岩手県名取市

14

梶原参加者からは、サーバーの管理や電話料金といったコストに関してや、おげんきさんの登録方法やみまもりさんの研修の必要といった導入の体制づくりに関して、様々な質疑が行われた。



写真3-1 岩手県社会福祉協議会でのヒアリングの様子

3-5. 滝沢市における「おげんき発信」運用状況についてヒアリング

2010年9月に小川教授の研究がJSTの研究開発プログラムに採択されたのを機に、地元の滝沢市（当時は滝沢村）は1つのフィールドとして選ばれ、当時より運用が継続している。滝沢市社会福祉協議会からは、これまでの経緯や現在の運用状況などが紹介され、「社協は気軽に相談できる場と、認知度が上がった」「行政やケアマネージャーと情報の共有ができることで、対象者の支援ネットワークの構築にもつながっている」などの報告があった。また、滝沢市川前地区の自治会や民生委員の皆さんからは「見守りの負担が減った」「今後もっと利用者を増やしていきたい」などの意見があった。



写真3-2 滝沢市でのヒアリングの様子

3-6. おげんき発信利用者との懇談会

実際に「おげんき発信」を利用している高齢者のお宅へ伺い、電話を使つての利用方法や使つてみての感想についてインタビューした。このシステムが始まった当初からの利用者である昭和2年生まれの黒澤キミさんは、1番「元気」のボタンを押すことが毎朝の日課になっており、実際に発信する様子をみせてもらった。また、「機械音は利口。遠慮がなくていいよ」「楽しみながら安心している」と率直な感想も伺えた。使用者が楽しんで使用している様子を受けて、梶原のでも使ってもらいたい高齢者の名前があがるなど、導入意欲が高まる機会となった。



写真3-3 利用者との懇談会の様子

3-7. みまもりさんへのヒアリング

宮古市社会福祉協議会川井支所では、みまもりセンターの役割を果たす社協で、高齢者から電話機を使って送られた情報がどのように見られるのかを視察した。川井地区（旧川井村）は、人口2,727人、高齢化率46.1%（2014年10月1日現在）と岩手でも過疎高齢化の進んでいる町ということで、県内で最初に「おげんき発信」を取り入れている。梶原町と似た山深い地域であるため、みまもりにおける難しい点など梶原での導入を想定した質問がなされ、活発な意見交換が行われた。



写真3-4 宮古市社会福祉協議会川井支所でのヒアリングの様子

3-8. 仮設住宅における見守りシステムの運用についてヒアリング

名取市では、東日本大震災で被災した仮設住宅に住む65歳以上の高齢者を対象に、2014年3月から見守りシステムを稼働している。名取市のケースでは、固定電話ではなく、タブレット端末を用い、テレビや冷蔵庫に取り付けるみまもりセンサーと、緊急通報装置を併用するシステムを導入しており、毎朝設定した時間におげんき発信のアラームが鳴り、「元気です」等のタッチパネルを押すという仕組みである。昼間は名取市社会福祉協議会よりの生活支援相談員が、夜間は警備会社が見守りを担当している。その後、実際に使用している仮設住宅、箱塚桜団地を訪れた。



写真3-5 名取市でのヒアリングの様子

4) 梶原版「おげんき発信」試験導入の開始

4-1. 目的

小川晃子PJで予てよりおげんき発信が展開されている、岩手県宮古市川井地区と同様に、梶原町も高齢化が進む中山間地域であり、独居高齢者が増えていることや住居間の隣接距離が離れていることによって、見守りに課題を抱えている。そこで、梶原町ならではのシステムを構築するべく、梶原版おげんき発信の導入を進めている。

平成26年度の活動目標は以下の3点であった。

- 目標1： おげんき発信の開始
- 目標2： おげんき発信普及のための中核組織の形成/連携強化
- 目標3： 梶原町所有資源を活用した「おげんき発信」の実施と地域活性化への寄与

4-2. 概況

各目標に対する達成状況は以下の通りである。

- 目標1： おげんき発信の開始
⇒ 2014年12月から開始し、翌年3月には利用者が10名となった。
- 目標2： おげんき発信普及のための中核組織の形成/連携強化
⇒ 梶原町のおげんき発信は梶原町社会福祉協議会（以下、社協と記す）が中心となり、地区民生委員/民生委員協議会と連携して進める体制が構築されつつあり、梶原町が社協を中核としておげんき発信の普及と活用を継続できる可能となっていると考えることができる
- 目標3： 梶原町所有資源を活用した「おげんき発信」の実施と地域活性化への寄与
⇒ 梶原町では町内にIP電話の類似した電話/通信網を整備しており、この網を利用した町内間の電話は無料となっている。この項に係る調査は通信網を敷設した企業に「利用可能性」の検討を委託し、情報を修正・整理を行った。これに先立ち、無料電話網に「おげんき発信」の仕組みを構築するケースについて検討を行った。この検討ではシステム構築主体が遠距離（岩手）にあるためシステム保守に大きな費用を要することが大きな課題と判明した。梶原町社協と協業して「おげんき発信」の普及を進めて、これまでの西区（6世帯）に加えて新規の松原区を含む新規数世帯のモニターを獲得した。また、3/7には、モニター6名と梶原町社会福祉協議会の関係者に加えて、今後の見守り実施者となる民生児童委員、更には健康推進員を参集し、フォーカスグループインタビューを実施し、現時点の感想等について意見を収集した。これらについては、動画作成や報告書作成に向けてデータ化を進めた。

4-3 開発経緯

□ モニター募集

募集時にあたっては、主に社協の協力を得た。モデル地区などを選定しながら、適切な対象者を選定して頂き、地域のサロンなどの場で提案・依頼を行い、モニターの承認を得た。その際に活用した説明資料の一部を下記に示す。



図4-1 モニター募集に際する説明資料

□ 梶原版ならではの取り組み

梶原では、伊香賀PJでのこれまでの活動を踏まえ、旧来のおげんき発信（能動的発信と自身の健康状態の記録）に加えて、おげんき発信時の室内の温度計測、血圧想定を依頼した。その際、おげんき確認表は下記のように変更した。



ゆすはらおげんきかくにん表

平成26年12月

					なまえ						
日付	曜日	げんき ①	げんき ② すこし	わぐ るあ い い ③が	部屋の温度 最高血圧	日付	曜日	げんき ①	げんき ② すこし	わぐ るあ い い ③が	部屋の温度 最高血圧
1	月					16	火				
2	火					17	水				
3	水					18	木				
4	木					19	金				
5	金					20	土				
6	土					21	日				
7	日					22	月				
8	月					23	火				
9	火					24	水				
10	水					25	木				
11	木					26	金				
12	金					27	土				
13	土					28	日				
14	日					29	月				
15	月					30	火				
						31	水				

この部分が梶原
で利用している
おげんき確認表
の特徴

○毎日(できれば午前中)おげんき発信をしたら発信した番号の欄に○をつけてください。4番「話したい」を発信したときは記入は不要です。

○発信が終わったら部屋の温度を計って温度欄に記入してください。

○血圧計をお持ちの方は血圧も計って最高血圧を記録してください。

メモ

図4-2 おげんき確認表（日誌）の概要

4-4 実績

下表は今年の1月1日から4月16日までのおげんき発信利用者別の発信状況をまとめた結果である。この期間の利用者全体の発信数は626であり、そのほとんどが「1番元気」となっている。特定の利用者に「少し元気」があるが、期間中の「悪い」（3番）、「話したい」（4番）の利用はなかった。この傾向は梶原固有の状況ではなく、いずれものみまもりセンターでも、発信のほとんどが「元気」であり、「少し元気」、「悪い」は特定の利用者に偏っている。

また、期間中「みまもりセンター」である社会福祉協議会が「電話をかけて安否を確認」した数は20件で利用者の発信数合計の3%であり、利用人数との比較では2日分に相当し、みまもりセンターの設置価値を証明する結果となっている。

表4-1 梶原版おげんき発信実績（2014/12～2015/3）

年		2014年	2015年		
月		12	1	2	3
月末利用者数		4	6	8	10
発信内容	未発信	30	70	94	119
	「元気」	124	145	176	251
	「少し元気」	1	2	10	9
	「悪い」	0	0	0	0
	「転送」	0	0	0	0
	合計	155	217	280	379

- (注) 1. みまもりセンターは梶原町社会福祉協議会が実施
2. 利用者および統計にはデモ用の2つのIDの数値も含まれている。

表4-2 安否確認実績（2015/1/1～2015/4/16）

おげんきさん		A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	合計
未発信		11	1	2	0		2	6		3			25
自分で発信	元気	84	94	93	95	51	72	39	45	2	14	12	601
	少し元気					25							25
	悪い												
	話したい												
	小計	84	94	93	95	76	72	39	45	2	14	12	626
見守りセンター確認		7	1	4			1	5	1	1			20
安否確認合計		91	95	97	95	76	73	44	46	3	14	12	646

(注) 4/16現在の利用者は11名

4-5 フォーカスグループインタビューの実施

2015/3/7には、12月よりおげんき発信を開始したモニター6名と、見守りを行なう梶原町社会福祉協議会の関係者に加えて、今後の見守り実施者となる民生児童委員、更には健康推進員を参集し、フォーカスグループインタビューを実施した。現時点の感想等について意見を収集した。これらについては、動画作成や報告書作成に向けてデータ化を進めた。

この際、梶原版おげんき発信が潤滑に実施され、モニター本人と見守り実施者が有意義と実感していることが明らかになった。特に、梶原版ならではの、血圧・室温の記録票の記入が意外にも非常に好評であった。意外にもと記した理由は、90歳を越えるモニターもあり、新規の機械（血圧計）を扱うことや、作業が増えることを懸念していたためである。「自分の健康のためだから、なんて事も無い」という1人の参加者の意見には、その他の全モニターが賛同していた。これには、非常に驚かされると共に、今後の利用拡大に向けて非常に好感触を得た。



図4-3 グループフォーカスインタビューの様子

前述のような好感触を得た理由として、次の2つが考えられる。

① 各モニターにとっての“気付き”があったこと

先のおげんき記録表への記入を通じて、「意外にも、毎日の室温が違う」、「室温が低い時は血圧が低くなっている」等という発見に繋がり、自身の行動の振り返り、あるいは対策に寄与したことによると考えられる。これは、一つの生涯教育とも捉えることができ、伊香賀PJの最終目標である、低室温状態を起因とする疾病（高血圧等）の予防や、将来的な住まい改修（断熱改修）に発展するものと期待される。

② 記録した日誌をかかりつけ医に見せて褒められるという機会があったこと

あるモニターが、先のおげんき記録表を健康診断に持参し、担当医から高い評価を受けるという出来事があった。これにより、おげんき発信と自らの体調管理を自主的に進めるモチベーションが向上することとなっていた。また、おげんき発信を行なうモニター同士が、結果を話し合う機会があったことも意欲向上に寄与したものと推察された。以上のように、おげんき記録表をツールとしたコミュニティ形成が、人々を健康に結びつける可能性が示された。

以上によって、梶原版おげんき発信では、非常に良好な結果となっていることを確認した。この取組みが広く普及することにより、梶原町高齢者の健康増進と医療費の削減など波及効果も期待できる。尚、血圧記録や室温記録の方法は、岩手県にも逆輸入することが検討されている。

4-6 町所有資源を活用した「おげんき発信」のためのシステム検討

「おげんき発信」は高齢者が家庭用電話機、IP電話、携帯電話などで、毎日、自分の体調を発信する仕組みであり、発信の状況・内容は、市町村社会福祉協議会などが運営する「みまもりセンター」がインターネットを経由して、確認し、未発信や「体調が悪い」などの場合は、予め登録されている「みまもり役」に依頼し、対象者の状況を訪問確認する。これにより地域での「孤独死」を防ぐとともに、併せて、地域のつながりを強化していくことを目的としている。

梶原町では2014年11月から具体的は導入活動を開始し、すでに複数の高齢者が「おげんき発信」を開始している。一方、導入活動の過程で、梶原町では「通話が無料の町内電話網」（以下、「町内電話網」と記す）が稼働しており、利用が進んでいる。

「町内電話網」は町外への通話はできないものの、高齢者世帯では、NTT回線契約を中止、「町内電話」のみを利用しているケースも発生している。

JSTプロジェクト終了後の梶原町での「おげんき発信」継続については、引き続きNTT回線等での実施が可能である一方、「町内電話網」は梶原町固有の資源であり、かつ、町民にも馴染みが強く利用も進んでいる。このため、「町内電話網」活用した「おげんき発信」が可能となれば、一層の普及と継続性が期待できる。

このような背景を踏まえ、「町内無料電話網」を設計・設置・運用している四電工社等と連携し、「町内電話網」を利用した「おげんき発信」の実施について技術的可能性を整理することとした。また、併せて構築概算費用を算定し、「町内電話網」を利用した「おげんき発信」実施の意思決定に資する情報を整理することとした。

その結果を下記に示す。

表5-1 梶原町の町内IP電話網を活用した「おげんき発信」実施可能性調査要約

名称 条件	① 050 発信	② 代表番号発信	③ 光電話回線 利用	④ SIP サーバー 構築
構成・技術条件	加入端末にIPを配付し電話番号(050)の紐付けを実施	町内電話局舎内に光電話5回線を設置し利用者はこの回線に向けて発信	おげんき発信利用者がPikara光電話を利用	町内電話局舎内にSIPサーバーを構築しておげんき発信用ネットワーク整備
制約条件	新規回線が必要。告知端末の変更、町内電話局舎内のネットワーク機器の設定変更が必要	おげんき発信側には光回線番号で接続されるため利用者の特定ができない	光電話の契約は町が一括で実施。利用者はNTT、町内電話を含め3台の電話機を利用	各家庭に配付されているONUポートの利用目的に制約があり対応不可
構築費（初期）	3400千円	発信者が特定不可のため利用できない	500千円	設備面の制約で実現不可能
維持費（毎年）	6168千円		1800千円（利用者100人）	
おげんき発信	通常運用可能		通常運用可能	

調査の結果、町内電話網は機能拡張に制約が大きく、これを利用したおげんき発信実施のためには光電話網の導入が不可避である。この仕組みは現行機能以外の利用に制約が多く、本件に限らずネットワーク活用型の地域システムの形成に際してボトルネックとなるリスクが高い。

また、維持費と利用者の金銭的負担を見ると③の光電話を導入するケースでも年間一人当たり18,000円（月額1,500円）であった。NTT回線でのおげんき発信では1通話約11円であり、年間通話料は11円*366日=4062円であり光電話導入ケース（③）の利用料を大きく下回る。このため、おげんき発信普及の観点から「利用者負担を軽減する」としても、現行の仕組みでの「発信通話料」負担を軽減することが妥当と考えられる。

以上を梶原町と相談しながら今後の継続の方法と次々年度町予算化に向けて協議を進める。

4-7 今後の予定

1. おげんき発信利用拡大に係る活動

利用拡大に係る活動は基本的には社会福祉協議会および民生委員など「地域」側で実施される。PJ側は普及活動の側面支援。なお、社協と協議し普及計画（概要）案を作成する。

2. おげんき発信システム利用に係る調整

PJ終了を前提に、「終了以後のおげんき発信実施」に係る調整等を行う。想定される活動内容は以下のとおりである。

① 利用するシステムの選定

基本的には現在利用している「おげんき発信」を継続して利用することを前提に、必要であれば「梶原版」おげんき発信システムの検討を行う。

② おげんき発信利用環境に係る調整

昨年度実施した「おげんき発信の町内IP電話網利用に係る調査」結果を踏まえPJ終了後の利用環境等の整備について検討・調整を行う。

3. おげんき発信利用者を中心とする交流型活動の検討

川井地区（宮古市川井地区）、滝沢市川前地区で展開されているおげんき発信利用者を中心とする交流型活動の企画・検討を行う。

4. おげんき発信導入効果の検証

おげんき発信の利用により利用者およびその関係者等の意識や行動の変化および集落等の地域社会の変化をヒアリング等により把握する。

以上の活動は梶原町、梶原町社会福祉協議会などと連携して実施する。

5) 多摩ニュータウン「介護予防講座」の地区別実施

5-1. 概要

住まいとコミュニティによる健康長寿についての普及啓発を目的として、多摩ニュータウンにて介護予防講座を実施した。同講座を実施した施設は要介護認定を受けていない者で、家に閉じこもりがちな状態や、廊下における体力低下等で介護予防が必要な高齢者を対象とした介護予防施設で、多摩市独自の取り組みとして設置されたものである。星副代表からは多摩市が東京都のなかでも「平均寿命が長いこと」や「要介護認定率が低いこと」に、介護予防施設をはじめとするNPO団体や市民団体の取り組みが寄与していることや、健康のために歩くことの重要性が話された。また、伊香賀代表からは梶原町における調査の成果が報告され、梶原町における成果の多摩ニュータウンへの普及促進を進めた。

5-2. 参加者

伊香賀俊治PJ代表、星旦二Grリーダー、その他研究協力者
介護予防施設利用者25名

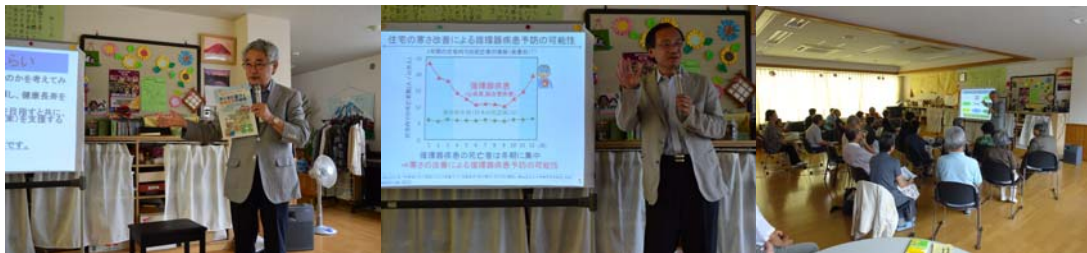


写真1 多摩ニュータウンにおける介護予防講座の様子

5-3. 多摩での更なる展開

前述の活動を更に発展する形で、2014年6月から10月にかけて多摩市住民を対象に、「介護予防と望ましいエンディング」をテーマとした、計8回のシンポジウムを多摩市公民館と協働して実施した。これは、梶原町での教訓等を基に、介護予防と望ましいエンディングに向けた本人と家族の役割と共に屋内外支援環境づくりについて、継続学習を展開するものである。

ここで活用する、健康教材として「さあ、はじめよう、あなたの住まいの健康づくり」と題する教材を作成した。さらに、2014年1月より、多摩市の3つの地区を対象として、①都営住宅18名、大規模改築集合住宅12名、戸建て住宅地域で10名に対して、居住環境の学習会を実施した。血压測定と万歩計測定は、春夏秋冬の4ヶ月とし、2015年1月を実施、次回は5月を予定している。室内の温湿度測定は2015年12月までの1年間を予定している。

6) 事業成果報告・普及活動

6-1. 梶原町での展開

これまでの活動と成果を梶原町民に紹介する場として、次の講演を実施した。

【日 程】

2014年11月3日 : みんなで未来につなぐ 福祉のまちづくり大会
於 梶原町 ゆすはら座

2015年3月7日 : 健康推進員合同研修会
於 梶原町「ゆすはら・夢・未来館」

【講演会詳細】

①「みんなで未来につなぐ 福祉のまちづくり大会」

2014年11月3日、高知県梶原町のゆすはら座で、「みんなで未来につなぐ 福祉のまちづくり大会」と題したイベントが行われた。これは、梶原が、1964年、昭和39年に『福祉村宣言』をしてから今年で半世紀という節目を迎えるにあたり開催したものであり、梶原町長をはじめ、町議会議員、町民、そして、「ゆすはら健康長寿の里づくりプロジェクト」のメンバーも参加し、盛大に開催された。代表の子どもたちによる感謝の想いや将来の夢について発表が行われ、プロジェクトメンバーである、星副代表が講評を行った。また、橋田氏（梶原町保健福祉センター長）と樋口氏（梶原町社会福祉協議会）による、これまでと現在の梶原町の福祉への取り組みが報告された。子どもたちの夢を支える家族、地域の力とそれを支える行政といった環境の重要性を再認識し、梶原町が福祉の町であることを実感する会であった。

尚、町長によって新たに宣言された「福祉のまちづくり宣言」には、本PJ等での経緯から、星副代表が一部監修を行っている。



図6-1 「みんなで未来につなぐ 福祉のまちづくり大会」の様子

② 健康推進員合同研修会

2015年3月7日に、健康推進員9期生の合同研修会が開催され、今年度の取り組みと活動の反省、来年度の活動予定などが発表された。昼食時には、各自でお弁当を作ることで「自分にピッタリの栄養バランス」を実践的に学習した。また、JST伊香賀プロジェクトメンバーの紹介とこれまでの事業成果を報告し、住宅の温熱環境による健康影響を示すことで、住生活の注意喚起を行った。現在、試験的運用中のおげんき発信についても、プロジェクト内容を周知した。



図6-2 健康推進員合同研修会の様子

6-2. その他の地域での展開

宿泊体験プログラムを始めとする梶原町での取り組みと研究成果を広く普及し、他地域でも健康学習が進むことを期待して、①WEBホームページの更新（毎月）と、②全国37都道府県で44回の講演を行った。（次頁参照）

以上の広報を通じて、梶原町に多く問い合わせが寄せられることとなった。NPO法人日本健康住宅協会が現地を訪問し、実際に宿泊体験プログラムを施行することにも繋がっている。また、平成27年度においては、伊香賀代表の監修の下、横浜市では市と業者体験型宿泊パビリオン施設が開設され、宿泊体験プログラムが展開されることとなった。



図6-3 講演を実施した37都道府県

【業績】

(1) 代表的な論文（著者・誌名・題目・巻号頁数・発表年）＋公刊論文総数

- 1) 海塩渉・伊香賀俊治・大塚邦明・安藤真太郎：個人因子別の家庭血圧上昇量に関する分析 ―冬季の室内温熱環境が血圧に及ぼす影響の実態調査―，日本建築学会環境系論文集Vol. 79, No. 701, pp. 1348-0685, 2014. 7
- 2) 川久保俊・伊香賀俊治・村上周三・星 旦二：住環境が居住者の健康維持増進に与える影響に関する研究 全国の戸建住宅の環境性能と居住者の健康状態に関する実態調査，日本建築学会環境系論文集Vol. 79, No. 700, pp. 555-561, 2014. 6
- 3) 伊香賀俊治：健康長寿に資する住まいとコミュニティの創造，福祉介護テクノプラスVol. 7, No. 7, pp. 8-11, 2014. 7
- 4) 伊香賀俊治・堀進悟・鈴木昌・三宅高齢者が熱中症になりやすい住環境と注意点，老年医学Vol. 52, No. 5, pp. 505-511, 2014. 5
- 5) 伊香賀俊治：健康長寿に資する住まいとまちづくり，老年医学Vol. 52, No. 1, pp. 1135-1142, 2014. 5
- 6) 都市郊外在宅高齢者における就労状態別にみた3年後の累積生存率；渡部 月子，櫻井 尚子，藤井 暢弥，星 旦二，社会医学研究 31巻2号 Page141-150, 2014. 7
- 7) 日本における都道府県別に見た死亡率と要介護状況と社会経済状況との関連 (Prefectural mortality in relationship to socioeconomic status and long-term care in Japan) (英語)：楊 素雯，星 旦二，社会医学研究31巻2号， Page159-171, 2014. 7

(2) イベントや社会貢献の実績（年月日、場所）

1. 2014年6月7日（慶應義塾大学 日吉キャンパス 藤原洋記念ホール）：基調講演 和泉洋人「健康長寿社会の実現に向けて」、健康・省エネシンポジウム in かながわ
2. 2014年6月7日（慶應義塾大学 日吉キャンパス 藤原洋記念ホール）：研究報告 伊香賀俊治「スマートウェルネス住宅推進のための試行調査」、健康・省エネシンポジウム in かながわ
3. 2014年9月3～5日（秋田大学）：空気調和衛生工学会大会での発表
4. 2014年9月10日（多摩市諏訪いきがいデイサービスセンターみのり）：星 旦二・伊香賀俊治、おいでなはんしょ介護予防講座（第1回）
5. 2014年9月11～13日（神戸大学）：日本建築学会大会での発表
6. 2014年10月2日（サンポート高松）：セミナー 伊香賀俊治「健康と省エネを両立するスマートウェルネス住宅デザイン」、第15回全国健康住宅サミット四国大会
7. 2014年10月18日（前橋工科大学1号館）：研究報告 伊香賀俊治「スマートウェルネス住宅推進のための試行調査と今後の展開」、健康・省エネシンポジウム in ぐんま
8. 2014年10月19日（グランキューブ大阪国際会議場）：基調講演 伊香賀俊治「住宅と住まい方と健康に関する啓発、調査を大阪府民全体で行い、健康長寿・地域滑石化のモデルに」、健康・省エネシンポジウム in 大阪
9. 2014年10月24日（東京ドームホテル札幌）：基調講演 伊香賀俊治「健康で長生きするための住宅リフォームのすすめ」、健康・省エネシンポジウム in さっぽろ

10. 2014年10月25日（福井県産業会館1号館）：基調講演 伊香賀俊治「スマートウェルネス住宅推進に向けた試行調査と今後の展開」、健康・省エネシンポジウム in 福井
11. 2014年10月28日（住宅金融支援機構本店すまい・るホール）：パネルディスカッション、伊香賀俊治「健康で長生きするための住宅リフォームのすすめ」、住宅の長寿命化リフォームシンポジウム
12. 2014年10月29日（八仙閣本店）：パネルディスカッション 安藤真太郎「ふくおか型健康・省エネ住宅による地域活性化と健康長寿の実現を目指して」、健康・省エネシンポジウム in ふくおか
13. 2014年11月1日（ザ・グラマシー）：基調講演 伊香賀俊治「住宅の断熱性能と木質内装が居住者の健康に与える影響に関する試行調査と地域協議会への期待」、健康・省エネシンポジウム in 山口 part III
14. 2014年11月2日（丸亀市民会館）：基調講演 伊香賀俊治「健康長寿社会の実現に向けて」、健康・省エネシンポジウム in かがわ
15. 2014年11月3日（熊本市国際交流会館）：研究報告 伊香賀俊治「スマートウェルネス住宅推進に向けた試行調査と今後の展開」、健康・省エネシンポジウム in くまもと
16. 2014年11月3日（栲原町ゆすはら座）：みんなで未来へつなぐ福祉のまちづくり大会
17. 2014年11月5日（とちぎ福祉プラザ）：研究報告 伊香賀俊治「スマートウェルネス住宅推進に向けた試行調査と今後の展開」、健康・省エネシンポジウム in とちぎ
18. 2014年11月7日（大阪ガス ガスビル）：パネルディスカッション、伊香賀俊治「健康で長生きするための住宅リフォームのすすめ」、住宅の長寿命化リフォームシンポジウム
19. 2014年11月8日（金沢商工会議所）：研究報告 伊香賀俊治「スマートウェルネス住宅推進に向けた試行調査と今後の展開」、健康・省エネシンポジウム in いしかわ
20. 2014年11月12日（千葉市民会館小ホール）：基調講演 伊香賀俊治「住宅の断熱性能と木質内装が居住者の健康に与える影響に関する試行調査と地域協議会への期待」、健康・省エネシンポジウム in ちば
21. 2014年11月15日（つくば国際会議場大ホール）：基調講演 伊香賀俊治「住宅の断熱性能と木質内装が居住者の健康に与える影響に関する試行調査と地域協議会への期待」、健康・省エネシンポジウム in つくば
22. 2014年11月16日（新潟市民プラザ）：研究報告 伊香賀俊治「スマートウェルネス住宅推進に向けた試行調査と今後の展開」、健康・省エネシンポジウム in にいがた
23. 2014年11月17日（日本橋社会教育会館ホール）：伊香賀俊治「スマートウェルネス住宅推進に向けた試行調査と今後の展開」、硝子繊維協会特別セミナー
24. 2014年11月19日（浦和コルソコミュニティプラザ）：研究報告 伊香賀俊治「スマートウェルネス住宅推進に向けた試行調査と今後の展開」、健康・省エネシンポジウム in さいたま

25. 2014年11月19日（多摩市諏訪いきがいデイサービスセンターみのり）：おいでなはんしょ介護予防講座（第2回）
26. 2014年11月24日（日本大学工学部62号館）：研究報告 伊香賀俊治「スマートウェルネス住宅推進に向けた試行調査と今後の展開」、健康・省エネシンポジウム in ふくしま
27. 2014年11月25日（フォレスト仙台第2フォレストホール）：伊香賀俊治「スマートウェルネス住宅推進に向けた試行調査と今後の展開」、硝子繊維協会特別セミナー
28. 2014年11月29日（伊予鉄会館）：試行研究報告 伊香賀俊治「スマートウェルネス住宅推進に向けた試行調査と今後の展開」、健康・省エネシンポジウム in 愛媛
29. 2014年12月4日（グランシップ静岡）：基調講演 伊香賀俊治「住宅と住まい方と健康に関する啓発」、健康・省エネシンポジウム in しずおか
30. 2014年12月6日（仙台ガーデンパレス）：研究報告 伊香賀俊治「スマートウェルネス住宅推進のための試行調査と今後の展開」、健康・省エネシンポジウム in みやぎ
31. 2014年12月10日（文化の森総合公園イベントホール）：基調講演 伊香賀俊治「健康長寿社会の実現を目指して」、健康・省エネシンポジウム in とくしま
32. 2014年12月12日（三重大学医学部臨床講義棟）：研究報告 伊香賀俊治「スマートウェルネス住宅推進のための試行調査と今後の展開」、健康・省エネシンポジウム in みえ
33. 2014年12月14日（岐阜グランドホテル）：研究報告 伊香賀俊治「スマートウェルネス住宅推進のための試行調査と今後の展開」、健康・省エネシンポジウム in ぎふ
34. 2014年12月17日（住宅金融支援機構本店すまい・るホール）：基調講演1 星旦二「健康な住宅を創りましょう」、伊香賀俊治「住宅の断熱性能と木質内装が居住者の健康に与える影響に関する試行調査と地域協議会への期待」、健康・省エネシンポジウム in とうきょう
35. 2014年12月27日（サンシップとやま 福祉ホール）：研究報告 伊香賀俊治「スマートウェルネス住宅推進のための試行調査と今後の展開」、健康・省エネシンポジウム in とやま
36. 2015年1月14日（奈良県社会福祉総合センター）：基調講演 伊香賀俊治「住宅の断熱性能と木質内装が居住者の健康に与える影響に関する試行調査と地域協議会への期待」、スマートウェルネス（地域包括ケアシステム）シンポジウム in 大和
37. 2015年1月25日（プラーカ3 駅南貸会議室）：ミニ講演 伊香賀俊治「スマートウェルネス住宅について」、スマートウェルネスシティとスマートウェルネス住宅政策を融合し、新潟から健康都市を全国に発信を
38. 2015年1月29日（ホクト文化ホール 小ホール）：基調講演 伊香賀俊治「健康長寿に寄与する省エネ・木質住宅の試行調査」、健康長寿と省エネ住宅シンポジウム in 長野
39. 2015年1月31日（名古屋大学 ES総合館ESホール）：研究報告 伊香賀俊治「スマートウェルネス住宅推進のための試行調査と今後の展開」、健康・省エネシンポジウム in あいち

40. 2015年2月1日（佐賀市民会館大ホール）：基調講演 伊香賀俊治「住宅の断熱性能と木質内装が居住者の健康に与える影響に関する試行調査と地域協議会への期待」、健康長寿と省エネ住宅シンポジウム in さが
41. 2015年2月7日（姫路市医師会館大ホール）：基調講演 伊香賀俊治「住宅の断熱性能と木質内装が居住者の健康に与える影響に関する試行調査とひょうご協議会への期待」、健康長寿と省エネ住宅シンポジウム in ひょうご
42. 2015年2月11日（山形県 JA ビル 大会議室）：研究報告 伊香賀俊治「スマートウェルネス住宅推進のための試行調査と今後の展開」、健康・省エネシンポジウム in やまがた
43. 2015年2月14日（長崎大学文教キャンパス教養教育講義棟 A21 教室）：基調講演 伊香賀俊治「健康で長生きするための住まいづくり、～住まいの寒さが血圧・睡眠・活動量に与える影響に関する調査から～」、第2回健康・省エネシンポジウム in ながさき
44. 2015年2月28日（会津大学 大講義室）：講演 伊香賀俊治「スマートウェルネス住宅推進のための試行調査と今後の展開」、健康・省エネシンポジウム in あいづ